

## 2021 年度第 1 回豊岡市環境審議会 会議録

日時：2021 年 6 月 30 日（水）午前 9 時 30 分～正午

会場：豊岡市役所本庁舎 3 階 庁議室

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、土川忠浩、内海京子、木築基弘、野世英子、菅村定昌、  
洞田美津子、山田博文、島崎邦雄、戸田勝之、中村 肇、山下正明

欠席した委員：西垣由佳子、毛戸 勝

事務局：市民生活部生活環境課 課長 成田和博、生活環境係 主査 亀本英樹

同地球温暖化防止対策室 室長 井上浩二、主事 大逸優人、主事 岸谷依子

担当課：コウノトリ共生部農林水産課

環境農業係 係長 松下貴俊、主査 家元貴司、主任 仲田直樹

林務・水産係 主幹 西村文紀

傍聴者：齋藤栄理香（農業スクール生）

### 1 開会（司会：井上室長）

- ・会議の公開、会議概要の公表を確認
- ・配布資料の確認

### 2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶
- ・成田課長より挨拶

### 3 協議（議長：山室会長）

【会長】次第に沿って進める。今年度の環境報告書の作成について協議に入りたい。事務局から説明をお願いします。

【事務局】2020 年度環境報告書について説明する。昨年度の報告書を踏襲した形式で今年度も作成する。今回を含めた 2 回の審議会でもとめる。目標像①から⑩までを順番に、各目標像 13 分を目途に(10 分、13 分で合図)一つずつ審議いただく。トピックスの項目案を事務局で作成した。今日の会議で項目を確定したい。決まった項目について、次回報告書の審議の際に文章を確認いただくようにする。目標像①豊かな森、目標像②里山、目標像③田んぼ、目標像⑧ごみ、目標像⑩環境経済については、担当課が出席し、審議が終われば退出する。2020 年度評価案も昨年度の評価を基に加除筆による修正を事務局で行った。コロナの影響で活動できなかった項目については評価から削除した。第 5 部【前年度環境審議会意見の反映状況】と、第 6 部【環境審議会の意見について】は次の審議会でも協議する。効率的な議論のため、配布した『「第 6 部 環境審議会の意見」に記載する内容』を活用して、事前に自身の意見をまとめていただきたい。今回は、特に評価の内容について審議いただきたい。今

回は可能な限り多くの意見をもらい、次の審議会で反映した状態で確認いただく予定としている。

【事務局】「2020 年度 環境報告書(案)」について前年度からの変更点を説明する。目標像①から順番に説明する。

#### 《評価基準》

- ・よくがんばりました：▲(マイナス評価)より○(プラス評価)が3つ以上多い
- ・この調子でがんばろう：▲より○が1～2つ多い
- ・もっとがんばろう：▲と○が同数、または▲が多い

目標像①「手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます」

【事務局】大きな修正、変更点はない。「(2) 間伐材の利用」に掲載している豊岡産ペレットの販売量について、2019年8月末を以て生産が終了していることから数値がゼロとなっている。2021年度の環境報告書分から削除する。トピックスは「森林環境譲与税の使い道」について記載を考えている。評価案は、「○住宅への木質バイオマス利用機器の設置が広がりつつある。」(根拠：グラフ「木質バイオマス利用機器設置補助件数」)、「▲バイオマス発電所への間伐材提供が減少している。」(根拠：グラフ「間伐材供給量(朝来バイオマス発電所)」)の2つで、「もっとがんばろう」という評価。

【会長】意見や質問があればお願いしたい。

【委員】「分収造林」と記載があるが、「分収育林」という言葉もある。該当しないのか。

【担当課】植えてから使うところまで考えると、「造林」だと認識している。その過程の中で、林の中の木を育てるという意味では「育林」であるが、総じて「造林」という言葉を使用している。

【委員】針広混交林化の効果が挙げられているが、生物多様性の観点から考えると、種が豊富になることも明らかである。また、伐期がずれて長期収入もできるという点も加えた方がいい。

【担当課】山にある木の多くが針葉樹であり、ほとんど更新がなされていないので、更新することが求められる。防災の観点からも、針葉樹ばかりでなく広葉樹も増やしていく必要があるなどを踏まえ、「豊岡市林業ビジョン」を策定予定で2022年度以降に方針が定まる。脱炭素の視点では、今ある大きな木だけでは不十分。

【委員】森林を放置したままでは、元に戻らない。植林だけでなく、より多様な森林というものを考えて欲しい。

【委員】ペレット販売量はゼロだが、ペレットストーブの補助件数は5件ある。まだペレットは販売しているか。

【事務局】市内でのペレット生産は終了したが、市外産のペレット等を購入して使われている。薪ストーブの購入数が増加してきている。

【委員】7ページの「具体イメージ」は、環境基本計画を策定した際に10年後こんな風になっていたらいいと設定したものであり、余程のことがないと変更しない。豊岡でペレットを生産していなくても、ペレットストーブや薪ストーブの使用が増えてほしいということは変わら

ない。

【委員】森林面積率が重要視されてきている。養父市は森林のCO2吸収量を算出して、企業等に販売している（カーボン・オフセットクレジット）。

【委員】森林資源を掲載することで、間伐をどれだけしたかわかる。森林構成や森林がどれだけあるかわかるようにすればいいのでは。

【担当課】7ページの《所有別森林面積》で掲載しているとおおり、豊岡市の森林面積は約55,000haであり、そのうち人工林は約23,000ha。その人工林を整備していくのが森林環境譲与税の使途目的であり、細かい構成分布の比較を見てもらうこともいいと思う。

【委員】1年生から5年生を1齢級、6年生～10年生を2齢級と5年スパンで区切っているが、どの齢級のものが多いか見せるのがわかりやすい。この部分を間伐しているというのが理解しやすいのかもしれない。

【会長】事務局で《所有別森林面積》を充実させてください。目標像①の評価「もっとがんばろう」となっていることについて、ご意見あるか。

【委員】間伐材供給量が2019年は大きく増加し、2020年に減少している理由はなにか。

【担当課】市内ペレット製造にも間伐材を供給しており、ストックが残っていた。2019年に製造中止になったことから、まとめて「朝来バイオマス発電所」に供給したことから、数字が大きく増加した。北但東部森林組合は朝来バイオマス発電所へ年間2,000t供給する目標数値があり、2020年度も達成できていることから、順調に搬出しているといえる。

【会長】今の内容について、8ページに説明書きを加える。併せて、評価の「▲バイオマス発電所への間伐材提供が減少している。」について、委員から意見はあるか。

【委員】コロナの影響により木材価格が下がり、出材をストップした経緯がある。しかし、アメリカの住宅ブームやコンテナの調達により木材価格が値上がりしているのもある。不透明な部分が多いことを認識してほしい。

【委員】2021年度は、バイオマス発電所へどれくらい搬出できそうか。

【委員】協定を結んでいるため、一定量は搬出できると思う。

【会長】今のご意見を踏まえ、「○バイオマス発電所へ間伐材を順調に搬出している。」に変更する。それに伴い、評価も「もっとがんばろう」から「この調子でがんばろう」に変更する。

目標像②「里山が様々に利用され、関わる人が増えています」

【事務局】「(2) 森林公園の利用」について、「竹野南森林公園体験教室参加者数」及び「奈佐森林公園利用者数」ともに新型コロナウイルス感染症により参加者数、利用者数が減少した旨を記載している。併せて「(3) 森林ツーリズム」の「ラムあるき登山参加者」については、新緑登山、雲海登山ともに中止の旨を記載した。トピックスは、加陽水辺公園で開催されたイベント「森の博士になろう！」について記載予定。評価案については、「ラムあるきが登山イベントとして浸透している」を削除し、「○シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数6,500頭を達成しており、有害駆除数が初めて5,000頭を超えました。」(根拠：グラフ『「シカ有害被害撲滅大作戦」の捕獲状況』)、  
「○有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業獣被害面積や被害額は減少している。」(根拠：グラフ「防護柵設置

延長(補助金分)」、グラフ「緩衝地帯整備面積」、グラフ「農林業獣被害額」)の2つで、「この調子でがんばろう」という評価。

【会長】意見や質問があればお願いしたい。

【委員】里山の広葉樹を木材資源として家具などにすると高く買っていただけるが、誰もしてくれなくて困っているという研究がある。また、シカは実際に減っており、植物等も戻ってきているが、ヤマビルが非常に広がった。今年もすでに2回吸血された。マダニも非常に増えている。注意喚起も含め、記載した方がいい。

【委員】今夏、「たけのこ村」か「奈佐森林公園」で生きもの観察のイベントを計画しているが、どちらもヤマビルやマダニが増加しており、他の場所で開催する話も出ているので、記載してほしい。

【委員】つい最近までは日高町上郷辺りだけで見られたが、近年はどこでも見られる。

【会長】個人の対策だけでは防除は難しいのか。

【委員】ヒルよけの忌避剤はあるが、マダニ対策は難しい。ヒルは血が出るだけだが、マダニは感染症があるため恐ろしい。できるだけ明るい服を着たり、家に持ち込まないなど、マダニがいるのが当たり前として行動していくことを広報していくしかない。

【会長】市で広報しているか。

【事務局】市でも十分な周知徹底を心がける。

【委員】山の傍に住んでおり、畑に行くだけでもマダニがくっついている。対策や危険性を子どもたちにも周知した方がいい。

【事務局】トピックスに「森の博士になろう！」を予定しているが、トピックスで周知するもの一案と考えるがどうか。

【委員】山が街の延長ではなく、危険なところであると知っておかないといけない。神鍋付近の山にはクマがたくさんいる。有害駆除等で頑張っているが、危険な状況に変わらない。しっかり覚悟、準備したうえで山に入る必要があることを認識してほしい。

【事務局】最近クマの目撃情報が多いが、たまたま人が見ただけの情報であり、実際はもっといる。

【会長】評価案についてご意見ください。

【委員】目標は全部で何頭とったかであり、有害駆除が増えたということは狩猟が減ったということであり、憂慮すべきことなのではないか。趣味で狩猟する人が減ってきており、今後、狩猟数が減り続けるのではないか。

【担当課】2020年度の狩猟数が減った大きな原因は降雪が多かったことである。

【委員】承知した。

【会長】降雪が原因で狩猟が減ったことも記載する。

目標像③「使われていない農地の利用が進み、生きもの豊かな田んぼが増えています」

【事務局】「(1) 豊岡の農業の現状」の「農家数の推移」について、2020年度から集計方法の変更に伴い専業・兼業別の項目が廃止され、販売農家としての項目に変更されたことを記載した。

「(2) 環境にやさしい農業」の「冬期湛水実施面積」についても、集計方法が変更された点及び別表での記載としている。「(3) 学校給食への利用」の「学校給食での地場産物利用

率」の数値は秋ごろに確定予定。「(4) 農業スクール研修生」については、2020 年度で卒業生の累計が 20 人となったことを記載した。トピックスとして、環境保全型農法の生物多様性保全効果について記載予定。

評価案は「○学校給食での豊岡産野菜利用率が、目標利用率を達成している。」(根拠：グラフ「学校給食での豊岡産野菜利用率」)を追加、「農業スクール卒業生が豊岡で就農したり、多様な農業の担い手が増えつつある。」(根拠：グラフ「認定農業者数・営農組合等」、グラフ「農業スクール研修生」)については、農家数や卒業生の減少を踏まえて削除した。「▲経営耕地面積が減少している。」(根拠：グラフ「経営耕地面積」)を加え、「もっとがんばろう」という評価。

【会長】 意見や質問があればお願いしたい。

【委員】 目標像③は「使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています」と書かれているが、慣行農法の圃場については恐ろしいほどにカエルの数が減っている。トノサマガエルも少ない。中干しが原因。コウノトリ育む農法にしても、水は張ってあるので、オタマジャクシはいるが、代掻きなどによりダメージが出ている。一度改めて考えないとダメだと思う。

【委員】 地産地消や旬のものを食べることは CO2 削減につながる。教育番組などでも、SDG s の視点も加わり、野菜の切り方や使い方に触れつつあるが、現場の先生は追いついていない。長期保存できる方法などを知ることが、目標像⑧にもつながる。

【事務局】 都会には地産地消を示す緑提灯を掲げているお店がある。市内にはおそらく 1 件だけだが緑提灯のお店がある。

【委員】 「たじまんま」などで、○○地方フェアなど、地元のものでない商品を販売されていることがある。地元産の販売量は算出できないのか。

【委員】 「たじまんま」は今年で 10 年目を迎える。当初は生産者が集まらなかったが、ここ 3 年くらい地元からの出荷が増えてきた。朝来市にも昨年オープンし、昨年度からは但馬全体の地産地消を目指している。イベント等で、地方フェアなどの買取販売もしているが、地元産の野菜が増えている状況にある。販売量をデータとして出すことも可能。大規模農家から小規模農家までであるが、家庭菜園の延長で余った野菜を販売される方が増えてきたため、地元野菜の販売が増えている。地産地消の面から言えば、学校給食での消費だけを意識してはだめだと思う。

【会長】 ご意見を踏まえ、記載の追加修正を検討する。農法と生きものの関連について話が出たが、JA としての取組みは何かあるか。

【委員】 JA が集荷しているお米の 7 割が特別栽培米であり、今後 8 割を目指している。基本的にコウノトリ育むお米は「コシヒカリ」で作付け頂いているが、消費者にとって価格的な面からアプローチが難しい。また、今年から生協と提携し、多収穫米の「ツキアカリ」という品種を、コウノトリ育む農法で作付けを開始した。価格的にもリーズナブルになるので、消費促進を目指している。

【委員】 水田の冬期湛水は、アマガエルとアキアカネに悪影響があるという論文がある。しかし、田んぼによって個性があり、細かく見ていかないといけない。また、同じ農法ばかりになると、

特定の生きものに大きなダメージとなる。慣行農法でも、退避溝を設けるなどのちょっとした工夫で生きものを助けられる。そうした取り組みを切に願う。

【会長】 評価案についてご意見ください。

【委員】 「▲経営耕地面積が減少している。」と「▲環境創造型農業の作付面積割合は減少している。」について、高齢化や担い手不足の影響が大きい。コウノトリ育む農法については、集落営農への移行や大規模な農地集約を進めているが、先細りするような作付け変更など、いろいろな要因がある。もちろん獣害なども影響している。気象条件が厳しくなっているのも大きな要因。

【会長】 集落営農や気象条件による作物への影響も記載する。

目標像④「あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます」

【事務局】 「(3) 水産資源保全」の漁礁設置数について 2019 年度と同様の漁礁サイズであることを記載。「(4) 子どもたちの体験活動等」の部分に、「谷山川の水質環境調査結果」を追加記載。国土交通省実施の「身近な水環境の全国一斉調査」において、子どもたちと一緒に実施しているもの。水質状況を示す COD 値を記載している。「(5) 清掃活動」について、新型コロナウイルス感染症により、ボランティア活動が軒並み中止になったことを受け、文章変更と、「これまでの活動」という表の見せ方に変えている。トピックスは、豊岡総合高校インターアクトクラブがごみ拾い甲子園で優勝した件を記載する。評価案については、「川や海岸を清掃するボランティア活動が市内各所で継続的に行われている。」(根拠：指標「(5) 清掃活動」)を削除、「○子どもたちの川での体験活動が定着している」(根拠：指標「(4) 子どもたちの体験活動等」)を新たに追加し、「もっとがんばろう」という評価。

【会長】 意見や質問があればお願いしたい。

【委員】 谷山川の水質について、昨年度急に下がっている理由を教えてください。

【事務局】 COD 値については、直前や前日の雨の状況にも影響されることがある。

【委員】 谷山川はもともと但馬で有数の汚い川であったが、下水道が整備されてきれいになった。

【委員】 ごみ拾いがお宝発見のように、子どもたちが楽しんで活動している。ただ、「見た目がきれいになればいい」で終わるのではなく、暮らし方や物の使い方を意識することが大切。清掃活動後のペットボトル飲料の配布などもやめた方がいい。

【会長】 昨年、川に流出する刈草等の話題があったが、その後どうか。

【委員】 少しずつ市民も意識されるようになった。トラックで回収し、処分された例もある。声に出すと変わる。刈草がたくさん出た際の処理が困難。固めて置いておくと、野焼きをされてしまうこともある。発泡スチロールのごみも困る。竹野浜でも、見た目はきれいだがよく見ると細かい発泡スチロールがあったりする。生きものへの影響も大きいと思う。ボランティアの力は大きい。有難いということに記載いただきたい。

【会長】 追加記載を検討する。

目標像⑤「コウノトリも住める豊かな生態系が、バランスよく保たれています」

【事務局】 「(1) 野外のコウノトリの状況」について、個体数および繁殖状況は数値未確定のため、

次回の審議会時に掲載予定。「(2) コウノトリが生息できる環境の整備」の「小さな自然再生活動支援助成件数」及び「湿地管理ボランティア数」は、新型コロナウイルス感染症による活動自粛のため申請件数、参加者数が少なかったことを記載している。「国交省自然再生事業湿地整備面積」については、整備面積を精査した結果、整備面積が増加した。トピックスは、コウノトリ野生復帰の取組みを通じて豊岡市が「第1回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」受賞」したことについて記載予定。評価案については、昨年と変更なく「この調子でがんばろう」としている。

【会長】意見や質問があればお願いしたい。

【委員】ぜひ来年度の環境報告書に「特定外来植物オオキンケイギクの駆除に関するチラシ効果」を記載してほしい。とても効果があった。

【会長】評価案についてご意見ください。外来種駆除が進んでいないという評価について、データ根拠はないが、マイナス評価としてあげている。ほかに何か指標的なものはあるか。

【委員】「河川水辺の国勢調査」を国交省が行っているが、5年に1度程度。過去のものは拾えるが、評価は難しいかもしれない。

【委員】「豊岡市のレッドデータ生物」があるが、特徴的に増えた種はないか。

【委員】定性的なデータに基づいた冊子であり、定量的なデータはない。漏れているものもあるかもしれない。兵庫県のレッドデータブックが改定されるたびに、修正していきたいと考えている。

【委員】トピックス案に「豊岡市のレッドデータ生物」に関して記載するのもいい。

【会長】トピックスの追加記載を検討する。

目標像⑥「様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます」

【事務局】「(1) 地域を学ぶ機会」の「歴史博物館来館者数」について、新型コロナウイルス感染症により来館者数が減少したことを記載している。歴史博物館「但馬国府・国分寺館」のイベント参加者数を記載していたが、内容が把握できる公開講座のみに特化した記載に変更した。「(3) 地域コミュニティ」の「地域コミュニティの行事事例」について、①八代コミュニティ「がんばらあーで八代花火」、②神美コミュニティ「神美カルタ」、③夢コミュニティ小坂「まち歩き・まち探検」地元の魅力を再発見、について記載する。トピックスについては、「いずし中川の郷づくり協議会」が毎年実施されている子どもたちとの生きもの調査について記載予定。評価案については、「○地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶことが子どもたちに浸透している。」(根拠：グラフ「地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数」と文言を変更し、「この調子でがんばろう」としている。

【会長】意見や質問があればお願いしたい。

【委員】地域研究をする人が減ってきている。昔は高校の先生が郷土史家になったり、生きもののことを調べていたが、誰もしなくなった。郷土史家がいなくなってしまう。評価案にあった資料を作る、ということができなくなってしまう。地域を研究するには資料がないとできない。そのためには資料を保管する場所を作らないといけない。空き家も複数あり、価値のある物もたくさんあるが、すべて失われてしまう。このままだと地域コミュニティすべてがハンコ

を押したように同じものになってしまう。

【委員】先日、地域コミュニティでワークショップを開催した。地域の好きなどころをあげてもらったが、なかなか出てこない。Uターンが少ないことに関しても、親自身が地域に目を向けていないことが影響している。豊岡コミュニティがまち歩きを2年前から開催している。歴史・文化・伝統芸能を知ってもらうことも、子どもたちの地元に対する誇りの醸成につながる。一番は、祭りなど地元の人と密接に関わることが重要。人との関わりが強い地域ほどUターンで帰ってくる子が多いと思う。ふれあいの機会を作ることが持続可能な地域づくりに大切。

【委員】豊岡が「住みたいまちランキング（雑誌等で異なる）」で日本一になっていた。豊岡は自然豊かで、外から見ると魅力が多い。コロナ禍でお祭りなどが開催できていないことにより、魅力が薄れていないか心配。

【事務局】「芸術文化観光専門職大学」が今年開校し、80人程度の学生が豊岡にやってきた。3年後には4倍になる。これまで以上に若い人たちが豊岡について知ることになり、何人かは豊岡で仕事をしようという動きも出てくると思う。新しく来る人たちから豊岡の魅力を教えてもらうことも出てくる。しっかり連携していきたいと考えている。

【委員】市内のまち歩きにも、学生スタッフとして関わってもらいたい。

【委員】市街地の区長会が、空き家をうまく活用したいという中で、シェアハウスや勉強スペースとしての活用を提案する動きもある。

【委員】ワークショップをするようになった経緯はなにか。

【委員】コロナ禍でのイベントがなくなり、ゼロベースでイベントを見直すことになった。その中でワークショップを行った。

【委員】地域を見つめなおす時間がなかなか確保できない。大阪生まれであるため、今住んでいる区に色々関わるが歴史的なことがわからない。伝えてくれる方がいればいいのだが、その仕掛けづくりをどうすればいいのか。五荘コミュニティでは、防災関係で各地区について発表する。知る機会を作らないとダメだと思う。

【委員】当たり前のようなことを調べていない。例として、柏餅であっても、文献によると、但馬ではサルトリイバラという植物の丸い葉で作るとされているが、誰もが柏の葉で包んでいると認識している。そういう身近なことを誰も知らないのがまずい。そういうことを発掘する「地域学」が全くない。

【会長】この4月からコミュニティの中間支援組織（ちいきの手）ができて、模索されながら取り組まれている。相談窓口ができたという認識で、方向性の弱い部分を補うアドバイスを行い、地域の歴史を掘り起こす取り組みを全市的にできるといいので、コミュニティ政策課に来ていただき、話を聞きたい。政策にも反映できるのではないか。取り組みとして、森や田んぼは進んでいるが、祭りや行事をつなげるという部分が弱く手探りな状況なので、次回の審議会で、委員からもご意見いただき、政策に反映させたい。

【事務局】担当課に伝える。

【会長】評価案については、現状は事務局案どおりとするが、担当課も交えて議論するうえで、再考する。



目標像⑦「子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています」

【事務局】「(1) 自然を学ぶ機会」の「コウノトリ KIDS クラブ会員数」について、新型コロナウイルス感染症により募集自体が取りやめになったことを記載している。「出張！田んぼの学校」についても、新型コロナウイルス感染症により団体数が減少したことを記載している。「高校生等地域研究支援補助件数」については、活動内容についても記載するように変更した。トピックスとして、コウノトリの繁殖地や飛来地の小学生がオンライン上で開催した交流事業「コウノトリ KODOMO かいぎ」について記載予定。評価案については、「コウノトリ KIDS クラブに定員以上の応募がある。」(根拠：グラフ「コウノトリ KIDS クラブ会員数」)、「各地で子どもの自然体験活動が浸透している。」(根拠：グラフ「生きものとふれあう体験学習(小学校)」についてコロナの影響が大きいと削除し、「○人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着している。」(根拠：グラフ「高校生等地域研究支援補助金」)、のみの評価とし、「この調子でがんばろう」という評価。

【会長】意見や質問があればお願いしたい。

【委員】「出張！田んぼの学校」が 2015 年度にピークになっているが、これは徐々に子どもが減って実施が困難になった地域があるため。地域環境として、学校単位でビオトープが増加しているが、どんな生きものがあるのか、どんな植物があるのか調査しておくべきである。

【委員】《市内各小学校区のビオトープ水田面積》について記載があるが、前年度との比較があるとわかりやすい。

【事務局】2021 年度から出石地域の弘道地区、福住地区、日高地域の八代地区にもビオトープが増設されたので、2021 年度の環境報告書に反映する。

【委員】「高校生等地域研究支援補助件数」について、2019 年度から支援額が減少しているが、活動数が増えている。コロナ禍でも充実していけるといい。この内容がトピックスになるくらいであるといい。励みにもなると思う。県立大学大学院もうまく連携できるといい。目標像⑦にもつながる。

【事務局】豊岡総合高校インターアクトクラブの記事を、別のトピックスで記載予定なので、来年度は他校の取組みを紹介することにしたい。

目標像⑧「市民みんなが、ごみの減量を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています」

【事務局】「(2) 資源ごみの回収」の「資源ごみ集団回収量」について、新型コロナウイルス感染症により、資源ごみ集団回収が中止されたことによる回収量の減少を記載。併せて「(3) ごみ回収の取組み」の「「クリーン但馬 10 万人大作戦」参加人数・ごみ回収量」についても、新型コロナウイルス感染症により、参加者数が減少したことを記載した。トピックスについては、「レジ袋の有料化」について記載予定。評価案について、「市内にいつでも出せる古紙回収ボックスが浸透している」を削除、「○農業用廃プラスチックの適正処理数が増えている」(根拠：グラフ「農業用廃プラスチック適正処理数」)を追加し、「もっとがんばろう」という評価。しかし、純粋に適正処理数が増えているのか、あるいはプラスチック量が増えているのか詳細がわからないため、評価が妥当であるか検討が必要。

【委員】家の近くにクリーンパーク北但がある。コロナ禍で家にいる時間が増え、断捨離する方が増え、行列ができる日もあった。ごみ搬入量がそこまで変化ないのはそういう影響もあるのではないか。持ち込まれるのは大きいゴミが多いように感じた。

【事務局】全体のごみ量は減っているものの、一人当たりのごみ量は増加している。家庭ごみは微減だが、事業系のごみは大きく減っている。人口は2007年と比較すると1万人以上減っているが、世帯数は1,600件程度増えている。そのため、個別に収集するごみが増える傾向にある。テイクアウトの容器が出たことも影響していると思われる。暮らしの中でごみの出し方を考え直すきっかけになると考えている。ごみの減量は地球温暖化防止にもつながる。そこをセットで、市民の皆さんに知ってもらう機会を作る。

【会長】その点についても補足で記載していただく。

【委員】「市民みんながごみの減量を実践し、一人当たりの排出量が徐々に減っています」と言い切っているが、具体的に何をやっているかが重要。どんな取り組みができるのか、市民が知らない。イベントの際にバザー(リユース物の提供)を実施するなど、取り組みはできる。コミュニティのワークショップの際、フリーマーケットをしたいという意見が多かった。不要なものが多くあり、捨てるにはもったいないと思っている証拠。

【事務局】豊岡市環境衛生推進協議会という組織があり、事務局を市が担っている。生ごみの水切りや3Rについて周知する動画を作成するので、周知につながることを期待している。

【会長】審議会での意見を動画に反映することはできるか。

【事務局】作成しているところなので、対応できる。

【事務局】家庭から出るごみの40%は水分と言われている。乾燥したものと湿ったものを燃やす際、前者が燃焼効率がいいのは明らか。クリーンパーク北但では、焼却の際の熱でタービンを回して発電し、自家消費するとともに余剰売電している。香美町、新温泉町と共に運営をしており、ごみ量に応じて負担金の請求があり、年間約2億6千万円。売電した分と相殺になることから、燃焼効率を上げ、負担金を減らし、市民サービスへ還元できることを意識してもらいたいので周知する。

【委員】コミュニティでのイベントの際、使い捨て容器を使用していることが多い。地域の人に知ってもらういい機会なので、使い捨て容器を使わない工夫や、使う場合はせめて分別・資源回収を奨励したい。コミュニティでは声の大きい人の一声で却下されたりもするので、負けない力や意識の醸成が必要。また、学校の調理実習を資源分別実践の場として、きちんと分けることを指導してほしい。

【会長】大雨の後、河川敷のごみが流れ下流域の人に迷惑がかかる実態がある。市民へ現状を周知することが大切。今後も良いアイデアを出してほしい。評価案については次回改めて検討する。

目標像⑨「市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています」

【事務局】「(1)公共交通の利用」の「市街地循環バス利用者数」について、新型コロナウイルス感染症により、コバス利用者が減少していると考えられる旨記載した。「(2)太陽光発電」の「住宅用太陽光発電システム設置補助件数」について、開始年度について記載した。トピッ

クスについては、キヅキ商会による「おすそ分け電源の設置」について記載予定。評価案は「コバス利用者が減少している」をコロナの影響で減少していることを考慮して削除し、「この調子でがんばろう」という評価。

【会長】意見や質問があればお願いしたい。

【委員】温暖化の施策としてエコハウス関連の施策は進むのか。

【事務局】元々は省エネや地球温暖化対策のモデルとなる暮らし方を検討する建物として整備されたが、現在は環境省とも協議をしながら、行政の目的に合わせた活用ができるようにしている。現状、演劇関係者の利用や、テレワークの場として活用していると聞いている。

【委員】住宅のエコハウス化の施策についてはどうか。

【事務局】2050年カーボンニュートラルを進めるにあたり、住宅のZEH(ネットゼロ・エネルギー・ハウス)などのエコハウス化も重要になる。今年度策定する「豊岡市再生可能エネルギー導入戦略」で必要な施策を検討したい。

【委員】省エネ行動をチェックする指標は難しい。屋根の遮熱塗装をしたかどうかなどは把握しやすい。以前豊岡市で開催された「市民環境大学」のように、市民が省エネ行動について学ぶ機会を創出できるといい。

【会長】評価案についてご意見ください。

【委員】暮らしのレベルで省エネ行動が増えているのか疑問。コロナ禍で外出自粛が求められたが、結局は車社会。

【委員】ノーマイカーデーはなくなったのか。

【事務局】お配りしている資料「2021年度豊岡市地球温暖化対策の取組み」及び「第4部 市の取組み実績」に記載している。毎月第2水曜日をノーマイカーデーとして実施している。

【会長】ノーマイカーデー参加者数がわかるのであれば記載いただきたい。

【事務局】担当の都市整備課に確認する。

【会長】評価案は現状のままとする。

目標像⑩「環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています」

【事務局】「(2)コウノトリの舞」の「コウノトリの舞認証品」について、登録品目を記載している。

《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》に2020年度分を追加記載している。「(4)人・もの・情報の交流」の「コウノトリ文化館来館者数」について、緊急事態宣言中の閉館に伴う来館者数の減少について記載している。併せて、<市外からのボランティア活動による交流・地域活性>についても、新型コロナウイルス感染症によりボランティア数が減少したことを記載している。トピックスとして、JAたじまが「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」にて、農林水産大臣賞を受賞されたことを記載予定。評価案について、「〇環境経済認定事業者が年々増加している」を追加し、「市外からのボランティア活動の受け入れによる交流が継続している」と「コウノトリ文化館の来館者数が減少している」を、評価対象として不適切であると判断し削除した。評価として「この調子でがんばろう」としている。

【会長】意見や質問があればお願いしたい。環境経済認定事業者が2件増えているが、どういう事業

者か。

【事務局】担当課に確認する。

【委員】認定を取得するだけで留まってはいけない。認定事業者同士でイベントをするなど、様々なことが考えられる。相乗効果を狙う動きが必要。

【委員】認定事業者になることで、「こんなメリットがある」というお得感がないと経済が回らない。移住者を増やすためにも、「豊岡に住むとこんないいことがある」と知ってもらう必要がある。数年前に認定事業への補助率が上がった。今回増えた2件もそのお得感を感じて登録したのではないか。

【委員】福知山市ではSDGs認定事業制度が始まった。それに比べると豊岡は先進的に取り組んでいたと言える。どう活かしていくかをしっかり考える必要がある。

【会長】以上で目標像①から⑩までの協議を終える。進行を事務局へ返す。

#### 4. 報告

- ・2018年度温室効果ガス排出量について

#### 5 事務連絡

- ・今後のスケジュールについて
- ・委員報酬の振込について

#### 6 閉会

- ・雀部副会長あいさつ